

講評



市振興審議会会長
柴田孝さん

10年後の南陽市のための素晴らしいスタートを切っていると感じました。この計画を考えるにあたって大切な視点の一つは南陽市外からの視点だと考えます。南陽市長が自身の名刺に「ラーメン課」と表記しているのも他者の視点を意識しているからでしょう。自分たちの思いだけでは思考が凝り固まってしまうのです。この会は、みんなでまちづくりを行う「コミュニティソリューション」のスタートラインです。ぜひこのエネルギーを切らさずに、議論の内容の実現に向けた活動がはじまることに期待します。



市振興審議会会長代行
池田めぐみさん

議論の際、時には世間の常識を飛び越えてみなければ見えない世界もあるかもしれませんし、正解や不正解に臆することなく意見を述べる勇气が必要です。今日の議論の正解が分かるのはきっと10年後。今は自分たちの物差しづくりで、10年前を振り返って前よりも南陽市が良くなっているかも！と思えたところにゴールがあると思います。日々変化する現代、この会が終わっても、一人一人が自らの意見を延べ、行動し、常に考え続けることが、10年後も豊かな南陽市をつくるために大切ではないかと思えます。



東北芸術工科大学
コミュニティデザイン学科
醍醐孝典さん

4回のワークショップを振り返って、毎回大量の意見が書かれた付箋が出されることや、雰囲気良さ、多くの高校生が参加し、大人と対等に議論していることに驚かされました。今年東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科を卒業する学生の中には、4年前に長野県木島平村の総合計画の策定に唯一参加した高校生がいます。計画づくりを通して考えた村の未来や地域の方との交

流が、必ず故郷に帰って地元の人たちと豊かな人生を歩みたいという目標をつくったそうです。計画を冊子にまとめることはもちろんですが、南陽市においても策定のプロセス自体が様々な人と人との繋がりを生み、豊かな暮らしをつくる第一歩に繋がっているはず。このワークショップが、一人一人が楽しみながら活動し、南陽市をつくっていく縮図であったように思います。

参加者の感想

10年後の南陽市を多世代で議論できたのが良かった / 市職員が丁寧に意見を聞きながら進行してくれたので、助けたいと思える行政づくりができていると感じた / ワークショップを通して自分の意見を伝えたり、初めて会った人にも話しかけられるようになった / 若い世代の前向きな考えや頼もしさ感激した / 普段の生活では関わりのない世代や業種の人と交流できて良かった / アイデアはまとまったので、あとは実行あるのみ / 大人と対等に話す機会は少ないので楽しい時間だった / 南陽市の将来を真剣に考えている人が多くいることを知り、市職員としてだけでなく市民としても頑張りたいと思った / このメンバーでもっと議論したり活動していきたい / 私たちの意見をすばらしい構想の骨格に整理してもらえて嬉しかった / すばらしい計画、冊子ができると期待する



nanyo 市民とみらい ワークショップ

Vol.4

2020年2月12日(水)
18:30~21:00
シェルターなんよう 小ホール

プログラム

開会、市長あいさつ
第6次南陽市総合計画の基本構想案について
市民参画の計画策定のポイントおさらい
ワーク
「基本構想から私ができることを考える」
閉会

白岩市長あいさつ



今日のワークショップはこれまで皆さんから頂いた意見を基に事務局でまとめた、第6次南陽市総合計画の最上位に位置する「基本構想案」を皆さんにお示しし、ブラッシュアップしていくことが目的です。一連のワークショップの中では、全国的に少子高齢化が進む中、南陽市では人と人、他市町村、民間と行政との繋がりや文化の継承など、繋がりやご縁を大切にしたいという意見が多く挙がりました。今後10年間の南陽市の計画の基礎となる基本構想をより良い計画としてまとめるため、是非皆さんそれぞれの立場から、私たちがより豊かな暮らしをしていくためのご意見を頂戴できればと思っています。

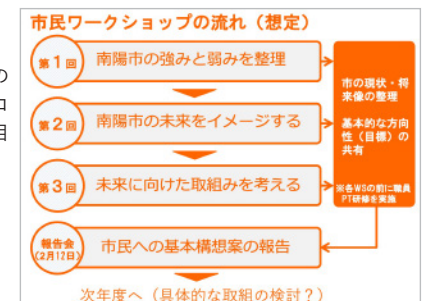
「市民とみらいワークショップ」について

南陽市では、2021年度から2030年度までの10年を計画期間とした新しい総合計画の策定に取り組んでいます。令和元年10月2日にスタートした「市民とみらいワークショップ」。最終回の第4回ワークショップでは、市職員によるテーブル進行で、これまでの3回のワークショップを振り返りながら第6次南陽市総合計画の基本構想案がどのようにつくられたか、そして、その内容について事務局から報告を行いました。

進め方

このワークショップでは、南陽市の魅力や課題、将来像を全3回のプログラムで整理し、基本的な方向性(目標)をまとめていきます。

これまでのスケジュール
第1回:10月2日(水)
第2回:10月30日(水)
第3回:11月27日(水)



南陽市第6次総合計画の基本構想案について



南陽市みらい戦略課 企画調整係長 鈴木 淳さん

第6次総合計画は2021年度からの10年間のもので、本日お示しする「基本構想案」は計画の中で最上位に位置する、南陽市のまちづくりにおける方向性を示したものです。基本構想案は市民とみらいワークショップと並行して行なった様々なイベントやアンケートでの意見、現状分析や人口推移などの行政視点も踏まえてまとめています。詳しく説明すると、現状と課題については、魅力と課題が表裏一体であることが明らかとなった第1回ワークショップの意見を多角的にまとめています。それらを踏まえ、南陽市の基本理念は「あらゆる世代が誇りと生きがいを持ち、安心して暮らしていくことができる社会を実現するため、ひと、もの、活動等のあらゆる地域資源をつないで、新たな価値を想像する」と掲げました。コンセプトは「地域を牽引する人材を育てる / あらゆる地域資源を活用する / 地域協働を推進する / 新たな切り口、捉え方、活用法を取り入れる」の4つです。将来都市像については第2回ワークショップでまとめたキャッチフレーズや、その過程で出されたキーワードを基に「つながり つどう 縁結ぶまち 南陽」と決めました。「つながり」には多様な交流により新たな発想や可能性を生み出すこと、「つどう」には信頼関係を築きながら共に活動すること、「縁結ぶ」には南陽市が多様な縁を生み出し人が集う場所になっていくという想いを込めています。また施策の大綱には7つの基本目標を掲げ、2030年の人口目標は27,800人としています。今日のワークショップでは、「自分ができること」をテーマに基本構想案をブラッシュアップできればと考えています。

南陽市総合計画基本構想骨子 (案) 資料1-1

第1章 総論

第1節 はじめに

- 計画策定の経緯
- 計画の構成
- 計画期間

基本構想	令和3年度～令和12年度 (10年間)
基本計画	前期 令和3年度～令和7年度 (5年間) 後期 令和8年度～令和12年度 (5年間)

第2章 基本構想

第1節 基本理念

あらゆる世代が誇りと生きがいを持ち、安心して暮らしていくことができる社会を実現するため、ひと、もの、活動等のあらゆる地域資源をつないで、新たな価値を創造します。

基本理念に基づくコンセプト

- 地域を牽引する人材を育てる。
- あらゆる地域資源を活用する。
- 地域協働を推進する。
- 新たな切り口、新たな捉え方、新たな活用法を取り入れる。

第2節 南陽市の現状と課題

本市を取り巻く情勢

- 少子高齢化・人口減少の加速
- 人手不足の進行
- 大規模自然災害の頻発
- グローバル化の進展
- エネルギー・環境対策の高度化
- 地方創生推進の進展
- Society 5.0.の推進
- 働き方改革の進展
- 外国人材の導入/拡大
- 持続可能な開発目標 (SDGs) の進展

地域課題

- 後継者不足
- 働き手不足
- 移動手段の確保
- 空き家の増加
- 教育環境の悪化
- 防災力・PRの不足
- 耕作放棄地の増加
- 山林の荒廃
- 行政ニーズの多様化
- 地域コミュニティの希薄化

第2節 将来都市像

つながり つどう 縁結ぶまち 南陽

南陽市は、かつてより東北各県を結ぶ交通、鉄道、駅があり、種々な人が行き交うことで多様な交流が生まれ、まちが育ちました。

人と人、まちとまち、過去と未来、心と心、それぞれの思いや情が、出会い、時間や時間を越えてお互いに信頼関係を築き、「つながり」と育ちました。

そうした「つながり」を大切に人々が集まり、それぞれの思いや多様な価値観が交わることで、新たな発想や新たな捉え方まで、可能性を生み出します。

そうした人達が集まり、多様な交流が生まれ、まちが育ちました。

「つどう」と表現しました。

「縁結ぶまち」は、南陽市が人やまちがつながる場所となり、多様な「つながり」、「つどう」の連鎖が、新しいまちを築いていくことを目指しています。

このまちの課題は、ここに住む人、出る人の生きがい、暮らしを豊かに、多様な「縁」により新たな付加価値を生み出していくことを目指します。

南陽市総合計画基本構想骨子 (案)

第3節 目標人口

総合計画の目標年度である令和12(2030)年度における南陽市の人口は「南陽市人口ビジョン」及び「南陽市まち・ひと・しごと創成総合戦略」を踏まえて、27,800人を目標とするものとします。

本計画における目標人口 (令和12(2030)年度末時点)

27,800人

南陽市の人口の長期的見通し

第4節 計画の構成 (Vision)

第5節 計画の大綱

市民参画の総合計画策定のポイントについておさらい



東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科 醍醐孝典さん

少子高齢化が進み人口が減少すると税収が減っていきます。これまでの時代のように、税収を市の公共的な事業に使うことでまちを維持するだけの考えは難しい世の中になってきました。そこで大切なのが市民の中で活動する人口を増やしていくという視点です。ワークショップの冒頭に、計画策定のために市役所へ要望陳情する場ではなく、皆さん自身ができることを考え、楽しみながら活動を行なっていくためのきっかけをつくる場であることも重要だという話をしました。計画策定の義務がなくなり総合計画を作らない自治体も出てきました。逆に言えば、「何故作るのか？」が問われる時代になったと言えます。南陽市で計画を策定する最大の意義は策定のプロセスの中で市民と行政が協働する点だと考えます。今回の策定では各回のワークショップの合間に市職員の研修を行い、市職員が市民と協働するためのスキルを磨きました。このワークショップは市民と行政がより協働して活動を行うための出発点です。今日はバックカスティングの考え方で行ってきた全3回のワークショップの総集編です。基本構想案を基にした活発な意見交換を期待します。

ワーク 基本構想を基に、私ができることを考えよう！

基本構想の軸となる7つのテーマに分かれ、ワールドカフェ形式で「市民」「協働」「行政」のそれぞれの視点から、私たちができそうな取り組みのアイデアをまとめました。

- 市民が取り組めること (民間事業など含む)
- 市民と行政の協働で取り組みそうなこと
- 行政に期待すること

健やかで安心な暮らし・子育てを実現する

- 放課後の多世代交流
- 市民が先生になる
- 高齢者の生きがいづくり
- 子ども職業体験
- 交流の場所づくり
- 使用していない公共施設の利用
- 子どもが地域の中で遊べる場
- 障がい者が活躍できる
- 様々な分野の施設
- 放課後子ども教室の活用
- 老人が運営する児童館
- 温泉を生かした集いの施設

地域に根ざした人材を育てる

- 市民が市民に教える
- 高校生が小中学生にスポーツ指導
- 地域の祭りや活動が充実
- とりあえずやってみる
- 世代間のディスカッション
- 学校を離れて育てる
- 大人と関わりを持てる社会
- 高校生によるスマホ講座
- 学生が地域活動に参加しやすい環境
- 繋がりを生む授業
- 移動図書館
- 郷土愛を育む授業

力強い産業の基盤をつくる

- 起業するチャレンジ精神
- 資源を守る仕組みづくり
- 「新しい職業」を生む
- 女性の起業の増加
- リスクを恐れない
- 新しい技術への支援
- 高齢者が働ける場所
- 行政と民間の協働イベント
- 先端技術を活用した授業
- 農業×カフェ
- 起業しやすい環境づくり
- 後継者を全国から募集

強くてしなやかなまち・住みよいまちをつくる

- 水路清掃
- 近所同士の繋がり (防犯)
- 見回りシステム
- 地域で災害の勉強会の実施
- 空き家の有効活用
- 町内会がないエリアでの繋がり
- 災害時の単身者への影響
- 助けてと言える環境
- 空き家についての情報提示
- 情報インフラの整備
- 災害に備えた環境整備
- ボランティアの受入体制構築

自然の豊かさを守る

- 歩く / 登山
- 野外活動で自然と触れ合う
- 野焼きをしない / 植樹
- ゴミの分別強化
- 食品ロスへの興味関心
- 生ゴミのリサイクル
- 量り売りなど詰め替えの促進
- リサイクルの過程を学ぶ
- 収穫ツアー
- 電気の自給自足
- 市全体でレジ袋禁止
- ムダの可視化

人が繋がりがちを育てる

- 地域活動への参加
- ボランティア活動で交流を深める
- 本屋やパン屋が無いならつくる
- 市民と行政が協働したサードプレイスづくり
- 世代間交流の場づくり
- 地元企業へのインターンシップ
- 若者の活動への支援の仕組み
- リーダーの育成
- 公民館の連携
- 行政情報の見える化
- 人の繋がりを生むサービス
- 他の市町村を繋ぐ役割を担う

発信力のあるまちづくりを進める

- 南陽市を学ぶ
- 海外に南陽をPRする団体をつくる
- 市内ラーメン店で修行
- SNSで南陽市の食べ物を発信
- インバウンドツアー
- ご当地ナンバープレートにラーメン
- 災害炊き出しボランティア
- 南陽ラーメン給食
- ラーメン課の仕事内容を紹介
- 都会に南陽のものを出品
- 南陽をラーメンの修行場に
- 市役所の車に名物をラッピング



非営利活動

活動人口 高齢者みまもり 税収経由 行政職員 1人雇用

税収 500万円

1000万円利益

4000万円利益

市民のやりたいたいこと「新しい公共」として積極的に取り組む必要がある

- 助成・助貸
- 連携連携
- 地域協働
- 社会協働
- 商業イベント
- ワークショップ
- コミュニティカフェ
- ミーティング